

10月1日
開始!

新型

ワクチン

それでもあなたは打ちますか？

日本看護倫理学会が異例の注意喚起！

新ワクチンが世界に先駆けて日本初登場

【緊急声明】
新型コロナウイルス感染症予防接種に導入されるレブリコンワクチンへの懸念
自分と周りの人々のために

要約
一般社団法人日本看護倫理学会は、次世代型 mRNA ワクチンとして、世界で唯一日本のワクチン（レブリコンワクチン）の安全性および倫理性に関する懸念を表明します。

はじめに
新型コロナウイルス感染症に対する予防手段として遺伝子操作型ワクチンである mRNA ワクチンが導入され、多くの国民が接種しました。

今までのワクチンが、ウイルスや細菌などの病原体を弱毒化したものやその成分を抗原として接種しヒトの免疫応答を誘導するのに対し、遺伝子操作型ワクチンは、当該抗原（スペイクタンパク質）をヒトの細胞内の遺伝子操作によって作らせます。

「危ないワクチン」販売を命じられた製薬会社現役社員の懲りたが Amazon 書籍部門で総合ベストセラ

す

開発国のアメリカや大規

模実験を実施したベトナム

はじめ、現段階において世界

各国で認可されていない

が、日本の開発をしたのは

アメリカの製薬会社です

この点について、日本

看護倫理学会の緊急声明

文は「海外で未認可であ

ることは何らかの安全上の懸念があるのではないか」と疑問

で認められた。日本だけ認められた。

この点について、日本

看護倫理学会の緊急声明

文は「海外で未認可であ

ることは何らかの安全上の懸念があるのではないか」と疑問

で認められた。

この点について、日本

看護倫理学会の緊急声明

当に充分なのか。リスクを危惧する多くの声に誠実に応えているのでしょうか」

(岡田さん)

室井さんも新ワクチンの健康被害を懸念する。

「レブリコンワクチンは体内の免疫反応を引き起こす抗原を長期間作り続ける構

造なので意図しない形で免疫反応が持続し、従来のワクチンより重い健康被害が出る恐れがある。海外の論文ではmRNAが自己増殖する過程で、想定外のエラ

ーや突然変異が起こる可能性も指摘されています」

さらに、「シェディング(伝播)」と呼ばれる現象

も指摘されています」

「レブリコンワクチンは自己複製するmRNA」

であるために、レブリコンワクチン自体が接種者から非接種者に感染(シェディング)するのではないかとの懸念があります。すなわちそれは、望まない人にワクチンの成分が取り込まれてしまうという倫理的問題をはらんでいます」

現在、シェディングを指摘する声は日本看護倫理学会ほか医療従事者の一部からも上がり、伝播を防ぐため、接種した患者を「立ち入り禁止」にするクリニックも登場するほどの過敏な反応も起きている。

そうした中、同学会が危惧するのは、新しいワクチンであるゆえに未知の部分が少なくない「レブリコンワクチン」を、そとは知らずに、あるいは同調圧力によって接種する人、特に医療従事者が出てくる危険性だ。声明文には次のように文言で周知している。

『従来のmRNAワクチン

10月から始まった「定期接種」のワクチンの種類

販売名	タイプ	供給量(見込み)
コミナティ	mRNA	約2527万回
スパイクバックス	mRNA	
ダイチロナ	mRNA	
ヌバキソビッド	組み換えたんぱく	約270万回
コスタイル	レブリコン (自己増殖型)	約427万回

厚生労働省の発表(9月19日時点)

これは、ワクチンを接種した人の呼気や汗腺などから排出(sweat)された何らかの毒素を吸い込むことと、未接種者にも影響が及ぶ可能性を指す。

日本看護倫理学会は、緊急声明でこう訴えている。

『レブリコンワクチンが

自己複製するmRNA』

であるために、レブリコンワクチン自体が接種者から

非接種者に感染(シェディング)するのではないかとの懸念があります。すなわちそれは、望まない人にワクチンの成分が取り込まれてしまうという倫理的問題をはらんでいます』

現在、シェディングを指

摘要する声は日本看護倫理学会ほか医療従事者の一部からも上がり、伝播を防ぐため、接種した患者を「立ち入り禁止」にするクリニックも登場するほどの過敏な反応も起きている。

そうした中、同学会が危惧するのは、新しいワクチンであるゆえに未知の部分が少なくない「レブリコンワクチン」を、そとは知らずに、あるいは同調圧力によって接種する人、特に医療従事者が出てくる危険性だ。声明文には次のように文言で周知している。

『従来のmRNAワクチン

接種の事例を鑑みますと、ひとたびレブリコンワクチンが定期接種化されば、医療従事者は率先して接種すべきであるとの世論や医療機関の方針が打ち出され

ることは想像するに難くあ

りません。患者を守るために医療従事者が感染経路と大義名分のもと、医療従事者自身の主体的な自己決定権が脅かされることがあります。

また、レブリコンワクチ

ンは、自分のみならず、非接種者の家族や周囲の人々にまで影響を与える可能性がある中で、接種しなければならない状況に追い込まれることは絶対にあってはならないことだと考えます』

岡田さんが続けて語る。

『遺伝子を操作するレブリ

コンワクチンやmRNAワクチンは、将来的ながんの発生などを見据えた長期的な監視が必要です。少なくとも、レブリコンワクチンにはさらなる治験や動物実験が欠かせません』

もし接種するなら種類は必ず聞く

打つべきか、打たないべきか——新型コロナが5

ちは新たな決断のときを迎えているが、岡田さんは、「いまの状況では打つ必要はない」という立場だ。

「新型コロナウイルスは時間の経過とともに重症化率が下がり、感染率が少し上がっています。なので、風邪と同じ異変を感じたら自主的に休めばいい。mRNAワクチンはさまざまな副作用が指摘され、接種すると感

染率が上がるとのデータも

あります。接種する方が未接種よりリスクが高いとする向きもあります』

室井さんも「定期接種の対象者全員が打つ必要はないのです」と話す。

「コロナが流行した20年頃に比べるとワクチンを何度も打ち、免疫力がついた人が多くなりました。今後は持病があつて健康リスクが高い人や、それらの人に対する接種を絞ることが必要です。

いまやコロナはインフルエンザより症状が軽いケースが多いのにワクチンの自己負担は最高7000円で、インフルエンザワクチンよりも数千円高い。費用対効果の面でも、対象者全員が受け

るかたにのみ、コミナティワクチンを接種する予定です』(谷口さん)

日本でだけ認可されたワクチンはどんな結果をもたらすのか。世界中が固唾をのんで見守っている。

うT.I.C.谷口医院院長の谷口恭さんは、「接種する」としたら、レブリコンワクチンとは別の選択肢を先に検討すべきと考えています

「いまは21年のように病床が逼迫しているわけでもなく、コロナ治療薬も複数あります。もはやワクチンが唯一の「武器」ではないのです。

打つにしてもレブリコンワクチン以外に3社のmRNAワクチンのほか組み換えたんばくワクチンがある

ので、それらを優先すると打つとしてもレブリコンワクチンを希望する人は、ワクチン以外に3社のmRNAワクチンのうち、レブリコンワクチンは約427万回分給される約3224万回分のワクチンのうち、レブリコンワクチンは約427万回分接種を希望する人は、どのワクチンを希望するかを考えおくべきだという。

「病院やクリニックの担当医に聞けば、どのワクチンを用意しているか教えてくれます。当院は、重症化リスクが高く、本人が希望するかたにのみ、コミナティワクチンを接種する予定です」(谷口さん)

日本でだけ認可されたワクチンはどんな結果をもたらすのか。世界中が固唾をのんで見守っている。